

バナナの積み降ろしをしている人に、お話を聞きました。

バナナ専用船が1隻入港すると、およそ100人の作業員が船内、岸壁、倉庫にわかれて作業をします。

きょうの専用船は、バナナの入ったダンボール箱を、およそ7万6000箱も運んできました。船が港に着いたら、すぐに70人ほどの作業員が船に入り、手作業でバナナの箱をパレット※(箱をのせる台)に積みます。

船からクレーンで降ろされた箱は、すぐにふ頭にある倉庫へフォークリフトで運びこみます。作業は10時間ぐらいかかります。新鮮さがたいせつですから、傷めないように気をつけ、すばやく仕事をしています。



フォークリフトで倉庫へ運ばれるバナナ



② 倉庫の中はどうなっているか

倉庫は小学校の体育館が2つ分ほどもある広さで、中はバナナの箱でいっぱいでした。倉庫での仕事についてたずねました。



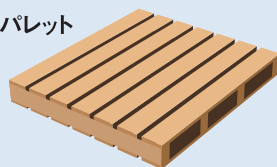
倉庫の中の温度は、いつも13度になっています。少し寒いぐらいです。バナナの検査をして、病気や害虫が見つかったら、ぜんぶのバナナをくんじょう※します。くんじょうがすんでからトラックで食品会社のムロまで運びます。

● バナナの箱を運ぶ工夫



- ・一番上の段の箱にかけた、一本の輪だけで全部の箱がくずれないようにしている。
- ・荷くずれしないように、箱をたてと横の交互に重ねている。
- ・ダンボール箱の大きさ
たて→およそ52cm
横→およそ34cm
深さ→およそ22cm
- ・1箱の重さ
→およそ14kg
- ・1箱のバナナの数
→およそ80本(4～8房)

● パレット



荷物を運んだり、保管したりするために、のせておく台。この台に荷物をのせたまま、フォークリフトなどで運ぶことができる。

● くんじょう

輸入農作物を入れた倉庫を薬の煙でいっぱいにして病虫害を殺す方法のこと。